

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 20 年 9 月 2 日
調査実施の時間	開始 10時00分 ～ 終了15時00分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 白ゆり (大分県)
評価調査員の氏名	氏 名 井上清三 氏 名 西嶋勝子 田中 努
事業所側対応者	職 名 管理者 / 事務局長 氏 名 川野 綾 / 木本弘喜 ヒアリングを行った職員数 2 人

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 2008年9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4490500016
法人名	有限会社 白ゆり
事業所名	グループホーム 白ゆり
所在地	佐伯市上岡1265番地2 (電 話) 0972-20-5250

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分市顕徳町2丁目1番5号
訪問調査日	平成20年9月2日

【情報提供票より】平成

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8.75 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,200 円	その他の経費(月額)	1,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(8月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低 66 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	池田医院(外科・内科) 丸山歯科医院(歯科)
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、旧佐伯市の西側に位置し、交通事情もバス停が近くにあるなど便利の良いところに位置しています。国道から30mくらい離れていますので、目立った騒音もなく、また施設の裏側に田園風景が見られるなどゆったりとした状況の中で、生活を楽しんでいます。

利用者同士も家庭的な雰囲気の中で、お互いを尊重し助け合いながらのびのび暮らしています。

居室は広々としており、鍵はかけず人の出入りが可能な状況です。また、共用空間は四季折々の花や掲示物が飾られ利用者が時節や季節感を味わえる工夫がなされています。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 管理者、事務局長、職員を別々にヒアリング及び書類等で確認する中、前回の外部評価を真摯に受け止め管理者を中心に職員全員で自己評価作業に取り組まれている状況が見受けられました。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員それぞれのポジションや利用者の支援の方法等に積極的意見が出され、努力されている状況が見受けられました。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営会議を施設からの行事報告にとどまらず、また施設と職員だけの考えに基づいた施設運営でなく、運営会議が施設に対して色々な意見、提案を出されることによって、新たな運営手法と地域との架け橋になれるような運営会議の活用を期待します。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の心身状況や問題が起きたとき、金銭の受入・支出なども定期的に報告がなされています。また意見・要望が出しやすいような環境づくりが工夫がされています。一層充実するよう期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の潜在的な能力を積極的に活用し、地域の人との拠り所、情報の発信の場として、地域に開かれた施設になるよう期待するとともに地区行事、施設への行事等、参加・交流が常に行われることを求めます。

2. 調査報告書

☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開設当時に、社長・管理者により作られたもので、リビング、事務所など、みんなが見やすい位置に掲示されています	○	運営者、管理者、職員等全員で18年度の制度改正に整合した理念の作成を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、毎日の朝礼やミーティング等を通じ職員間で常に話し合いがなされ、運営方針とともに共用されています。また利用者との接し方、サービス提供場面でも理念に基づいた支援が行われているのが見受けられます。		
2					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っているため、広報誌などが配られ、地域の行事等の状況はある程度伝えられています。事業所周辺の盆踊り等には参加が見受けられます。	○	地域の区長、民生委員等の力をお借りしながら積極的に地域とのかかり合いをもたれ、小学生・中学生などのボランティアの受入に取組み、地域に開かれた施設さらには地域の拠り所の核となるように期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は、管理者を中心に職員全員で取組んだ姿勢が伺われ、同時に評価を進める事で、自分達のポジションや利用者の支援の方法等改めて気づき、課題を感じ受け、その課題解決に努力されている状況が見受けられます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の利用者の生活状況や施設の出来事など運営会議の場を活用して、報告を行っています。また運営会議は、3ヶ月に一度定期的に行っています。	○	運営会議を、事業所の報告や情報交換の場だけでなく、会議のメンバーから色々な意見を受け、ホームの心強い応援者にならながら施設・利用者が社会参加へのきっかけ作りとなるように期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員とは、一年に数回ほど交流があり、また問題が起ったときなど随時相談に上がるなどの対応をしています。地域包括の職員さんとは、毎月意見交換等行っています。	○	市職員に利用者の状況、認知症のケア、グループホーム等を理解して頂くため、市職員の実習体験の受入など積極的に取組まれることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の心身状況や問題が起きたときなど、電話あるいは家族に会って迅速に対応されています。また金銭の受入・支出など定期的に家族等へ報告がなされています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、願い箱を玄関などに設置し、意見・要望が出しやすいように工夫されています。また家族会においても意見・要望が積極的に出され、その意見・要望は職員間で共用し対応なされています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、開設以来ない状況ですが異動が生じても、馴染みの職員(担当職員)と新人職員との二人体制で取組む対応システムが取られ、また利用者を馴染みの職員が継続的に支える体制も取られています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は年間数回行われて、その研修に参加できない職員のため朝礼、ミーティング等において研修内容の共用が行われています。また職員同志チームとしてお互いに育ちあうOJTを繰り返し行い、職員の資質の向上に努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所間では、一ヶ月に一回以上の連絡を行い情報交換をしていますが、他事業所の従業者同志の相互訪問・交流には至っていません。	○	地域の代表事業所としての立場を活かし、率先して従業者同士の交流が出来る環境づくりを創出し、地域グループホーム全体の質の向上に取り組むよう期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前から、双方間で遊び訪問を繰り返し、家族、利用者の安心、納得の信頼を得ています。入居者の受け入れもスムーズに運ぶように前もって馴染みの関係作りを心がけています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に話しかける時間を大切にしています。その中で思いがけない利用者の人生経験等で教訓に感動したり、新しい発見もあり、その後の支援方針に活かされています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族との対話や、本人と触れ合う中で、時折の気づき・ひらめきを見逃さず、本人の希望など職員間で情報の交換を行っています。	○	利用者一人ひとりにとって、最良の暮らしは何なのかなど常に問題意識を持ちながら、職員挙げて老後生活の良き理解者となることを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	編み物が上手な人、洗濯が好きな人、手伝ってくれる人等個性や得意な部分を取り入れて職員共同でアセスメント、介護計画を作成しています。		モニタリングを繰り返しながら、より個性にあった独自のアイデアを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の変化には常に気をつけ、進行防止を心がけながら、計画の変更がやむえない時は、医師や家族、職員で相談のうえ、より現状に即した計画の変更に取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その日の利用者の心身の状態や要望、家族の希望に合わせて静養、通院、買い物、訪問等臨機応変の対応を心がけています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内に協力医院があり、ほとんどの利用者のかかりつけ医となっています。連携が非常に、密に行われ、休日、夜間ともに素早い診察が可能であり、他の専門医への受診も紹介状で対応ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に看取りを2名行っています。現入居者は元気な人ばかりで、終末期の話題は出しにくい状況なので終末期に関するアンケート等に取り組んでいます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレの時間になると、自室へ誘導して個別の対応を心がけ、言葉遣い等も充分配慮し利用者の尊厳を傷つけないように取組まれています。ホーム内では個人の話題を避け、メモ等も他の人の目に触れぬような配慮が行なわれています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や思いを尊重しながら、利用者の個別性に配慮しています。利用者の要望についてそのつど対応し、職員会議にて情報の共有が図られています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握したうえでメニューの作成や食事 中の声かけにも笑顔で答え、食事を楽しみにしている ことが伝わってきます。また食べるペースや摂取量を細 かくチェックし利用者の健康状態が把握され、片付けも できる範囲で一緒に取り組まれています		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	月・水・金の午前と午後で入浴を行っていますが、利用 者の体調や希望にあわせて曜日や時間の変更にも対 応しています。入浴支援を行う時は出来ない部分をお 手伝いし、羞恥心や恐怖心等にも配慮がなされていま す。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をしている	利用者から洗濯干し、たたむなどの作業の協力や、調 理のアドバイス、味のつけ方、編み物で食器洗いを 作っていただくなど一人ひとりの生活歴や得技を活か した役割を分担することで利用者の支援に取り組んでい ます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのそ の日の希望にそって、戸外に出かけられるよう 支援している	1ヶ月に1度、利用者の行きたい場所などの希望を聞き ながら、外出支援が定期的に取り組まれ、また利用者 の体調や気分に応じドライブや買い物等個人的な状 況にも随時取組んでいます。外出したい時はそのつど 職員が付き添い、支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に 鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけ ないケアに取り組んでいる	日中、自室・玄関等開放され、施錠はされていません。 また帰宅願望のある利用者さんには職員が寄り添い話 題を変えるなどで対応され、職員が利用者さん一人ひ とりの行動や気持ちをよく理解し見守りしながら支援 に取り組んでいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わ ず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろ より地域の人々の協力を得られるよう働きかけ ている	年2回の避難訓練と自主訓練、消防署からの指導を受 けながら、火災時もパニックにならないように冷静に対 応できるように消火器の取り扱いも訓練されています。	○	夜間の職員が少ない時の災害対応など、普段から 訓練時に地域住民、関係団体、地域の消防団等と の参加を期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士からの定期的な指導はないが、いつでも相談ができ適切なアドバイスを頂いています。また一人ひとりの摂取量や好みをよく把握し、食事中的表情から満足な状況が見られ、食事支援、偏らない食事など健康への配慮がなされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには天窓があり、明るく開放的な雰囲気を保ち、行事などの写真もたくさん展示し、見ているだけでもその時の楽しそうな雰囲気が伝わってきます。一人ひとりが作られた作品やぬりえも展示され、自分の居場所を感じられる工夫がされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたソファや寝具を使用し、馴染みの食器棚や仏壇が持ち込まれるなど、今までの生活歴を維持し、個性のある安心して過ごせる部屋づくりが感じられます。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 白ゆり
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県佐伯市
記入者名 (管理者)	職員全員 (川野 綾)
記入日	平成 20年 8月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのふれあいをかね、家庭的雰囲気の中での安定した地域生活の継続を目標としています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で理念を共有し、実践に向けて、日々取り組んでいます。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家庭訪問時や、家族会面会時に理念を伝えています。地域の方を行事に招待し、当苑の事を知って頂いています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者が外を散歩している時も声をかけてくれ、野菜や花を頂いたりしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りに参加させていただいたり、地区の方を行事に招待しています。自治会にも加入しています。ドライブの時は地域の集合施設を活用し、地域の方に当苑を知ってもらうよう努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的に運営推進会議を行い、市の職員や地区の方と情報交換をしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を運営推進会議にて報告しました。また評価票を玄関に開示し、誰でも見れるようにしています。意見箱を玄関に設置しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	三ヶ月に一回開催し、利用者の状況報告を行い、参加者の方からの意見を活かしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	電話連絡を密に行い、定期的に市役所へ行き、報告をしています。市から訪問指導も行って頂きました。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対象利用者がいない為行っていません。	○	地域包括支援センターの社会福祉士の方を招へいし、勉強会を行いたいと思います。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルを作成し、理解浸透や厳守に向けて取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族が疑問を抱くことのないよう、十分説明し、同意を得ています。体験入居の申し込み、本入居の申し込み時、都度説明しています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と会話する機会を設け、要望を尊重し、納得のいく様対応しています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	変化があった場合は面会時に限らず、都度電話にて報告しています。金銭台帳を作成し、面会時や家庭訪問時に報告をしています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に不満、要望を問いかけ、何でも言ってもらえる雰囲気作りを心がけています。第三者機関を開示し、意見や要望を受ける機会をもうけています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回職員会議を設け、職員の方からも、意見、要望を気軽に言ってもらえるような雰囲気を作っています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	余裕のある人員を保っています。利用者の状態の変化があれば勤務時間の変更等、都度対応しています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はありませんが、今後あるときは移動や離職による利用者のダメージが無いよう、努めたいと思います。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会があるときは積極的に参加しています。また、内容の報告会を行っています。他施設にも見学に行き、良いところを取り入れています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐伯市中部のグループホーム代表事業所を務めているので、他施設と定期的に連携をとり、協議しています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休みの希望も可能な限り取り入れ、気分転換できるよう努力しています。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は現場へ積極的に来て、利用者や職員と関わってくれる時間を設けてくれています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申し込みがあった際は必ず本人、家族と面会し、ADL状態や入居に対する本人、家族の気持ちを確かめています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	過去のサービス利用や家族の要望、疑問等を時間をかけても把握するように努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の気持ち、家族の気持ち、状態をよく確認し、繰り返し相談することで、信頼関係を築くよう努力しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前、本人や家族に当苑に見学に来ていただき、当苑の雰囲気を感じてもらい、利用者、職員と会い、安心感を持ってもらうようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人一人と会話する機会を設け、疑問や不安を取り除き、支えあう関係作りを築いています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と会話する機会を設け、日々の出来事など、情報を提供し、家族と共に利用者本人を支えていく気持ちを伝えていきます。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日中の様子を面会時、又は電話にて報告しています。面会時は自室にて本人、家族がゆっくり過ごせるよう心がけています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人、同地区の方にも可能な限り来所していただいています。以前から利用している治療院、マッサージに通っています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者と会話することにより、利用者同士の関係の把握しています。また、その関係を全職員が共有できるようにしております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ入所された利用者の家族から、野菜の差し入れを頂いたり、退所した利用者の家族が懐かしんで訪問してくれたり、継続した付き合いをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中声かけ、コミュニケーションを設けることにより、言葉や表情、態度から気持ちや要望を感じ取り、把握に努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族面会時、知人面会時に少しずつ把握するようにしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の生活のリズムの把握、利用者全員の出来ること、出来ないことの把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に家族に意見、要望を伺っています。カンファレンス会議は職員全員参加し、利用者の状態を把握し、家族の意見、要望の反映に努めています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の要望の取り入れ、本人の状態を定期的に見直しています。また状態が変化すれば、都度カンファレンスを行い、検討、見直しを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に日中の様子、状態を記録しています。また記録を介護計画の見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体験入居の受け入れをしております。通院、送迎など必要と思われる支援は都度行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアの方に来所していただき、歌や踊りを楽しんでもらっています。行事に民生委員さんや区長さんを招待し、当苑を知ってもらっています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所の介護支援専門員と必要時、連絡を取り合っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加しており、情報交換を行い、協力関係を築いています。今後も継続していきたいと思っています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内にある協力医療機関の医師が主治医をし、本人、家族の希望を可能な限り聞き入れてくれています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医に協力していただき、適切な指導、助言をしています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	准看護師を二名配置しています。協力医療機関の看護師にも必要に応じ協力して頂いています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は定期的に面会し、病院関係者との情報交換や相談をしています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に対し、終末期(見取り)に関するアンケートをとっています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の意向を確認し急変した場合はすぐに主治医(看護師)に連絡し、密に連携を取っています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設へ入所、または入院する場合、介護添書を提供し情報提供をしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する声かけが誇りやプライバシーを損ねることの無いよう、発言に注意しています。記録が外部に漏れないように保管しています。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人一人の体調、本人の気持ちに配慮しながら毎日過ごして頂けるよう支援しています。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合をなるべく押し付けないよう、利用者に合わせ対応、支援しています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣は本人の意向を尊重し着たい服を着てもらっています。必要に応じ手伝っています。本人の希望に合わせたカット、パーマをしてもらえるよう、なじみの美容室に連絡をとっています。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調に合わせて食事の準備や片付け一緒にしています。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	定期的にパン屋さんやスーパーに販売に来て頂き好きなパンやおかしを購入できる楽しみをもってもらっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時や本人希望時にトイレの声かけをし排泄パターンを把握し気持ちよく排泄出来るように努めています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金 に実施しています。 利用者の体調や希望に合わせて午前、午後入浴を行っています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は可能な限りリビングで過ごして頂き、カラオケ、レクリエーション等行い、生活のリズムを整えることにより、夜間入眠出来るように支援しています。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物やオシボリをたたんでもらっています。 自室の清掃も出来る方には行ってもらっています。 定期的な外出による気分転換の実施をしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を持っている利用者もいます。 事業預かりの利用者に対しても必要に応じお店が販売に来た際や外出時など自分で支払うようにしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や気分に応じ、ドライブ・買い物に行っています。 その際は手作りのお弁当を持参しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得て外出や外泊をしている利用者もいます。 年1～2回家族、利用者、職員ともに外出できる機会をもっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には家族と連絡し、電話を取り次ぐようにしています。利用者の希望に応じ電話をかけたり、手紙を出せるよう支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間内の都合の良い時間に尋ねて来ていただけるよう配慮しています。面会時は自室でゆっくり過ごしていただけるようにしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束及び虐待に関するマニュアルを作成し、身体拘束・虐待をしない介護に取り組んでいます。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は自室、玄関等開放し、施錠は行っていない。外出希望時は付き添いしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者に対し声かけ、見守りをし、事故の無いよう配慮しています。夜間も定時及び必要時見守りをして様子確認をしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己管理が出来ると思われる利用者には洗剤、裁縫道具を持たせていますが、誤飲等事故の無いよう十分注意しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やヒヤリハット報告書を作成し、今後の事故対策をするとともに、必要に応じ家族への説明と報告を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変、事故発生時は協力医療機関に連絡し、指示を受け、状態に応じ往診していただいています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行い、防災マニュアルを作成しています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時には利用者の近況を報告し、今後起こりえるリスクについて説明をする機械を設けています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを実施しています。朝礼での夜勤帯の報告、連絡事項の報告を行っています。又、連絡ノートを活用情報の共有に努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食時服用忘れが無いか出勤しているスタッフで確認しています。状態変化時は看護師や協力医療機関に連絡、指示を仰いでいます。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝バイタルチェック時に確認し、記録しています。水分摂取を心がけ、適度な歩行(運動)、体操を行うように心がけています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分で出来る利用者には声かけし、自分でしてもらっています。きちんと出来ているか確認しています。自分で出来ない方には介助にて口腔ケアを実施しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の好みや意向を尊重しながらバランスのよい、楽しい食事を心がけています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成しています。日頃から手洗い、うがいの徹底をしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具を毎日ハイター消毒しています。食品の賞味期限に気をつけています。新鮮な食材を契約しているスーパーから配達していただいています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えて、季節感のある爽やかな玄関周りをにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室やリビングに季節に合った飾り付けをしたり、行事のお知らせ等を掲示しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや備え付けのベンチを設置し、自由にくつろげる空間作りに努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人が自宅で使い慣れた家具や寝具を使用し、安心して過ごせる空間を作るよう配慮しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに窓を開けて空気の入替えを行っています。 温度調節は利用者の希望や状況に応じてこまめに行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせてベッドの高さの調節をしています。必要に応じ畳の使用や手すりの増設等行っています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者が安心して過ごせるようにタンス等の位置を気をつけています。 状況に合わせて環境整備に努めています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植えたり、家庭菜園を確保し、利用者が日々楽しみながら活動できる環境を作っています。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・地域に密着し、地域に拓かれた施設作りを目指しています。
- ・医療協力機関との連携による終末期の看取りを行っています。
- ・利用者や家族の希望を可能な限り取り入れ、安心して毎日過ごせるように心がけています。